

平成三十年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 優秀賞

みんなの想いがつまった水

松山市立椿中学校 二年 有馬 千加

「節水、水を大切に」これは、公衆トイレによく貼っているポスターの言葉だ。書かれていても正直どのような方法で節水すればいいのか分からない。本当に私は、節水といえる行動をとれているのだろうか。

私は、小さいころ暑い日に家でゴムプールに水をはったり、ホースで水をかけあったり水遊びをよくした思い出がある。その時は、何も考えずに水を出しっぱなしにして遊んだ記憶しかない。今は、無駄に使っているつもりはない。母も、お風呂の残り湯を再利用して洗濯しお米のとき汁を花の水やりに使っている。だが、水道代は減らない。節水できていないのが現実だ。生きていく中で、必要不可欠であり当たり前前の存在となっている水。蛇口をひねるといつでも出てくる水。当たり前だからこそ深く考えずに、たくさん使ってしまうのだろう。

他国では、水があっても不衛生で飲むことができない。でも水がないため仕方なく飲んでいける国もある。また、砂漠化の進む地域では、水を求めて何キロも歩かなければならない国もある。そのため、学校に行けないという子ども達もいる。小さいころから、多くの水を運ぶ技術を教えられ生活に必要な水を何時間もかけて手に入れる。そう考えると、必要な時に蛇口から水がでて利用できる環境の日本は、とても恵まれている。それは、とても幸せなことなんだと改めて感じた。

松山市には「みんなの水道」と呼べる市之井手浄水場がある。昭和四十九年六月にできた松山市で一番大きな浄水場だ。この浄水場は、松山市で使う水道水のおよそ半分を作っている。何回も何回もろ過や

検査をしている。そして、たくさんの人のおかげで安心して使える水になる。私は、小学校四年生の時に、この市之井手浄水場を見学した。一番印象深いのが、中央管理室だ。案内してくれた人に、「ここは静かに、緊張感を持って見てね。」と言われた。この言葉は、一番重要な場所という意味がこめられていた。大切な所を見学させてもらえると感じた私は、静かに見学した。ここには、たくさんのモニターがあり職員さんが検査している。また、松山地区の水道の圧力をコンピューターでコントロールしている所でもある。その中庭で魚を飼っていた。飲み水を作っている場所なのに魚がいるのが不思議に思った私は、質問した。すると、魚は水の変化にとっても敏感だから、異常がないか検査していると教えてもらった。魚も水の監視役になっているんだなと思った。職員さんと魚の力で安全な水になり、家庭の水道へと運ばれる。最近では、水の安全性はもちろん、おいしさや処理の速さなど、よりよい水作りに取り組んでいるようだ。私たちが、普段何気なく使っている水は簡単に作られたわけではないことが分かった。本当に大変な作業が行われていることを忘れないようにしたいと思った。

私は、毎日の生活を改めて見直してみることにした。節水できる所が隠れていると思う。例えば、洗顔する時は、洗面器を使用する。トイレは必要以上に何度も流さない。雨水をバケツにため水やりをするなどたくさんのことができる。一番最初に書いた「節水、水を大切に」の公衆トイレのポスターは、必要以上に流さないという意味がこめられていたことに気づいた。

水のことを見直してみても、気を抜くことなく仕事をしてきている水道局・浄水場の方その他水作りに携わっている方に感謝し水を大切に使用したいと思った。

水は無限ではない貴重な資源なのだから。